

市民文芸

短歌

令和六年度
阿南市春季短歌誌上大会 選

互選賞二位

足許の猫の背中を撫でている老人ホームを拒み
し父は 竹田 雪湖

互選賞三位

ミモザ咲き花の黄色が揺れる時行けず終いのパ
リを夢見る 里和倭己子

モナリザの斜に流した目が憎い私の秘密知って
いるように 五島 秀子

特選

北風に上着なげあげ声あげて少年ふたり田を駆
けまわる 宮崎眞由美

わが脳次第に固くなりゆけり短歌や花でしつか
りほぐそう 京寛 幸美

帰り道ポツリポツリとにわか雨走れぬ老いは濡
れゆくままよ 中山 善嗣

「ないない」と置き場所忘れて探しもの吾の姿
と亡母が重なり 山本 賀代

入選

白寿まで生きて拙き短歌詠まん明谷梅林闊歩す
る我 西田 修身

薄氷張れども鉢のこの底に今もめだかは確と潜
めり 森本 仁美

落日の華やぎ消えて当事者は傍観者なる国政恐
ろし 吉永賀代子

あの母が嫌ひだったあのころの母を生きてる私
が好きだ 中原きみ子

俳句

阿南市俳句連合会 選

神苑の夜明けを待てず時鳥

青木 慧

草刈って戻り来る息子の農夫めく

久米 千草

訪ねしは妣ははかもしれぬ初蛭

山野 賢治

鮎釣りの醍醐味知らず鮎を焼く

石井 政子

二才児の抱しめ眠る夏ざぶとん

中分 明美

「かっこいい」素足に下駄のカラカラリ

張本 雅宣

底紅の落つ小流れや堀に沿い

島 玲子

塩ふって齧るトマトの甘きこと

中川よし子

夏場所や父大泣きの初優勝

岡本 隆子

菜園のそら豆のみの母の寿司

金本ひろみ

川柳

阿南川柳会 選

那賀川の流れに学び人となる

佐藤つたえ

健やかに生きたし愚痴を吐きながら

高木 旬笑

不審者はどこにもいますこの地球

多田紀久代

血圧の値スマホも聞きたがり

橋本 征介

執念を持ってひと山乗り越える

二階千代美

忍び寄る老いに素知らぬ顔をする

野村 敏子

そっと手をやさしく脇に歩行補助

野口 吾朗

一般応募

豊作を願ひ肥やした田を守る

島尾美津子

昭和より生きた証の染みと黦

泰地 重美

今日カレー鼻から先に帰宅する

武田 敏子

漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社 選

早曉獨思

城満 航也

烏骨鶏鳴仰曉星

烏骨鶏 鳴きて曉星を仰ぐ

白山羊静臥如聽

白き山羊 静まって臥し聴くが如し

昔人何若知寅刻

昔人いかにして 寅刻を知るか

寂寂家中執湯瓶

寂寂たる家中 湯瓶を執る

初夏偶成

大地 和子

青青秧列引光風

青青たる秧列 光風を引き

飛燕高低西又東

飛燕高低 西又東

下校兒童更所指

下校の兒童 更指さす所

揃需餌啖噪巢中

揃つて餌啖を需めて 巢中に噪ぐ

川

市田 嘉則

河伯無貪報不求

河伯 無貪 報は求めず

恩波遍涉繞蘆州

恩波遍く涉りて蘆州を繞る

晚風碎月金龍躍

晚風 月を碎きて金龍躍り

猶趁清漣悠久流

猶お清漣を趁う悠久の流れ

